

生まれついて多くの才に
恵まれた者はその力を

世のため人のために
使わねばなりません

弱き人を助けることは

強く生まれた者の責務です



煉獄瑠火

「鬼滅の刃」第8巻より

「生まれついて多くの才に恵まれた者は、その力を世のため人のために使わねばなりません。天から賜りし力で人を傷つけること、私腹を肥やすことは許されません。弱き人を助けることは、強く生まれた者の責務です。責任を持って果たさなければならない使命なのです。決して忘れることなきように」 by 煉獄瑠火

ジャンプコミックス「鬼滅の刃」 / 吾峠呼世晴作 第8巻より

◆映画で炎柱・煉獄杏寿朗と上弦の参・猗窩座（あかざ）との戦闘シーンはすごかったね～。

――煉獄さん強くてめっちゃカッコよかった！メタメタにされても奥義の型を出して、勝った～！と思ったんだけど..。

土煙の後、杏寿朗の水落ちに猗窩座の拳が貫いて、もう絶望的に息が詰まったな！思わず猗窩座も「死ぬ！死んでしまおうぞ！鬼になると言え！お前は選ばれし強き者なのだ！」と叫ぶ。それを聞いて杏寿朗が回想するのが上のセリフだ。

――煉獄さんのお母さん体が弱くて、子どもの煉獄さんに、なぜ自分が人より強く生まれたのか分かりますか？って聞いて。それで「私はもう長くありません、あとはたのみます」と言ってぎゅって抱きしめる。僕は二人ともエライな～って思った。

パパもね、こういう真っ直ぐな言葉が用意されてたことにドッキリしたし、感動したよ！これは煉獄母子のキャラクターをよく表してるけど、むしろ大人にこそ真面目に受け止めてほしい言葉だなんて、今の政治や社会の風潮を見てて思うんだ。

大きな経済力とか強い権力を持っている人は、その使い方について影響が大きい。周りで働くや人困ってる人の生活をよくする役割と責任があるはずだ。

例えば会社でも偉くなると、気に入らない部下にはつらくあったり、お金を自分の贅沢に使ったりしてしまうことがたまにあるんだ。家の中だったらDVとか起こってしまうかもしれん。弱いお父さんもいるけどね。クラスの中でも、昔のガキ大将は腕力もあったけど面倒見もよかったよ。弱い子をいじめる奴にはこらしめてたりした。今はちがうやろ？

――なんかねー、ちょっと浮いてると変な目で見られちゃう。スポーツとか勉強できる子、明るい子って先生からも受けがいいし、うらやましいよ。

大人でも、人望があったり能力の高い人はすごいな



～と思う。きっとそういう人は、その力で社会のためにがんばれよって言われてるんだな。

――僕はそんなん多分ムリ～！でも煉獄さんみたいにかっこいいお兄さんがほしい！

◆うむ！パパも君と同じだ！！じゃなくて...

ただ、もし才能に恵まれた人がジコチューな人間だったら、

結局その才能がよいふうに通かなくて、人から嫌われたり、その人自身を苦しめてしまうんじゃないかな。

この前、お坊さんが来られた時、自利利他円満という話をしてくれたんだよ。昔、お釈迦さんが人間のことをよく観察して気づいたお悟りって言うらしい。他の人を悟りへとすすめることが、自分自身も悟りに向かう修行だと一緒なんだって、わかるかい？

――う～ん、お坊さんの話ってむずかし～。結局人の役に立つことをしたほうがいいんでしょ？

もちろん、例えば困ってる人がいて、自分が持っている力や時間を使えたとしたら素晴らしいよ。お隣さんのお年寄りに代わって雪かきしてあげるとかね。

けど大事なものは、もし自分が煉獄さんのように何も人を助けることができないと思うのはまちがいだ。そのお年寄りだってさ、こんど雪かきしてもらったお礼に君の大好きなカルピスを出してくれたら君もうれしいだろ？もっとがんばろうって。

それと気づけば分かるけど、実はその体の弱いお年寄りがいてくれたから、君も雪かきさせてもらえたんだよね？相手いればこそだ。雪も積もってくれたし。

――そうか～。杏寿朗のお母さんも「強い優しい子の母になれて幸せでした」って言ってた...

だからクラスの皆にしたって、天から与えられた大事なお役目、才能＝天才を隠し持ってる。長い人生、自分で気づかないうちに誰かを幸せにしたり、助けたりすることって、今は弱く見える人もジコチューな人になってきくとあると思うよ。(文責：報恩寺 林 暁)